専門研修プログラム名	精神科専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人社団和敬会　谷野呉山病院	
プログラム統括責任者	榎戸芙佐子	

専門研修プログラムの概要	精神医学は近年のAI、ITの進歩によりヒトの脳活動がリアルタイムで可視化され、さらにゲノム解析により人類の誕生からヒトの個体発生・発達の歴史まで解明することも可能になった科学のフロンティアにある。また、精神科医療は時代の流れや社会の変化、文化・風土の特徴と密接に関わっており、至るところに興味ある領域をみつけ社会貢献に与ることができる魅力的な医学分野である。当院は地域の精神科医療の中核を担う病院であり、話題性のあるホットな疾患から精神医学の歴史を紐解くような古い疾患まで多種多様で幅広い精神疾患を経験できる。また、的確な診断と治療の実践を学ぶことはもとより、社会保険福祉・心理・作業療法士等の多職種との協働体制がしっかり組まれているので、患者さんと患者さんを支える人達から多くを学ぶことができる。さらに、認知症、アルコール、発達の専門外来があり、医療観察法通院施設にもなっており専門的知識の習得が可能である。それらにより互いの人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理を総合的・長期的に捉え、良質で安全な医療の提供を心がけるプログラムになっている。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	新規入院患者は主に急性期病棟に入院するので、ここで診断、鑑別診断、治療方針をたて、治療に携わりながら自らの診断技術を磨く。入院患者の診察を通して症状の把握、薬物の選択と効果判定、精神療法を行う。生育歴、家族との面談から患者の心理社会的背景を把握し、入院の時点において退院後を予測し、必要な社会的支援を準備するとともに、入院中から対人関係の問題や生活支援のための作業療法や、精神症状への理解と対処について心理教育を実行してみる。病棟では多職種カンファレンスに参加し、徐々にリーダー的役割を担えるように努める。医局では、毎朝のミーティングで新規入院について簡略な患者紹介と治療方針を述べ、退院患者については治療の総括と考察を加えて報告する。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	１.患者及び家族との面接、２.診断と治療計画、３.薬物治療、４.精神療法、５.精神療法、６.精神科救急、７.法と精神医学、８.リエゾン・コンサルテーション精神医学、９.心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療、10. 各種精神疾患について主治医として診断・治療ができ、家族に説明することができる
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	病棟カンファレンス、医局カンファレンス、多職種カンファレンスを通じて、受け持ち患者の病態把握と理解を深める。研修会やeラーニング、文献検索や学会に参加して知識を深め技能を磨くとともに、自らも発表して向上させる。
	学問的姿勢	1)自己研修とその態度、2)精神医療の基礎となる制度、3)チーム医療、4)情報開示に耐える医療について生涯にわたって学習し、自己研鑽に努める姿勢を涵養する。そのことを通じて、科学的思考、課題解決型思考、生涯学習、研究の技能と態度を身につけ成果を発信できる。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	上記習得すべき知識・技能・態度1～10に加え、1)適切なインフォームド・コンセント、2)病識のない患者に対して人権を守る倫理的・法的対応、3)スティグマに対する社会的啓発、4)チーム医療、5)他の医療従事者との連携、6)医師としての責務と自立、7)診療記録、8)患者中心の医療、9)臨床現場から学ぶ態度、10)医療の発展、11)後進の指導、12)医療法規・制度の理解を習得する。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年次：指導医の指導を受けながら主に病棟勤務において専門知識を習得する。2年次：外来業務が加わり精神療法について習得する。3年次：未経験の症例の習得や学問的な研究に大学病院や特色ある研修施設群病院で研修する。2年次と3年次を入れ替えも可能。
	研修施設群と研修プログラム	連携施設：国立大学法人富山大学付属病院、富山県立中央病院、富山市立富山市民病院、医療法人和敬会谷野医院（クリニック）
	地域医療について	連携施設・病院、地域包括ケアを通して地域医療・福祉のシステムを理解し、在宅医療、往診医療、精神保健福祉センター、保健所との協働を学び経験する。なお医療観察法通院指定病院にも指定されている。
専門研修の評価	専攻医と指導医が互いに研修目標の達成度、プログラムの進行状況および研修指導の内容を評価・コメントし結果をフィードバックする。研修責任者は研修プログラム委員会に報告しフィードバックする。指導医並びに研修プログラム総括責任者は指導医講習会を受講しフィードバック方法を学習しプログラムに反映させる。	
修了判定	評価は最終年度に総括責任者が行い、基幹病院の研修プログラム委員会において、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成、プログラム施行上の問題点の検討と再評価を継続して行い、各専攻医の総括的な管理や評価を行う。また、委員会は専攻医や指導医に助言を行い、総括責任者が委員会における評価に基づき修了の判定を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医のために適切な労働環境の整備に努める。1)勤務時間は週34時間、時間外勤務は月80時間内、2)適切な休日を保証、3)当直と時間外業務に適切な対価、4)夜間診療業務に適切なバックアップ体制を整備、5)研修施設の待遇の配慮、6)給与は研修を行う施設で負担する。
	専門研修プログラムの改善	専攻医及び指導医による評価に対し、研修委員会は医師のみでなくメディカルスタッフ（看護師、社旗福祉士、心理師）が参加し、時には第三者も参加し、継続的に改善・手直しをする。
	専攻医の採用と修了	採用の要件は①日本国の医師免許を有すること、②初期研修を修了していること、であり、条件を満たすものにつきそれぞれの研修施設群で専攻医として受け入れるかどうか審議し認定する。修了要件は研修施設で、指導医の下で、ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、評価を受け、経験症例数リストの提出を求め、総括責任者により受験資格が認められたことをもって修了とする。

	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による「専門医制度新整備指針（第二版）」Ⅲ－１－④記載に準じる。6か月までの中断は残りの期間に必要な症例等を埋め合わせることで延長を要しない。中断の後、復帰した場合でも中断前の研修実績は有効である。他のプログラムへの移動などは精神科専門医委員会に申し出る。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本精神神経学会によるサイトビジットを受けることや調査に応じる。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	榎戸芙佐子：谷野呉山病院、副院長　　谷野亮一郎：谷野呉山病院、理事長、院長　　島崎正夫：谷野呉山病院、診療部長　　宮西知宏：谷野呉山病院、デイケア医長　　角谷陽平：谷野医院、院長　　樋口悠子：富山大学精神医学　講師　　野原茂：富山県立中央病院精神科　医長　　長谷川雄介：富山市民病院精神科　医長	
Subspecialty領域との連続性	（あり）	